

臨床－基礎教育の連携による演習プログラムの開発

—多重課題，時間切迫シミュレーション演習—

佐居 由美¹⁾ 松谷美和子¹⁾ 三浦友理子¹⁾ 奥 裕美¹⁾ 西野 理英²⁾ 寺田 麻子²⁾

Developing an Educational Program Incorporating Clinical and Basic Education —Simulation Training with Multiple Tasks and Time Constraints—

Yumi SAKYO¹⁾ Miwako MATSUTANI¹⁾ Yuriko MIURA¹⁾
Hiromi OKU¹⁾ Rie NISHINO²⁾ Asako TERADA²⁾

[Abstract]

Following President Ibe's initiative in 2004, St. Luke's International Hospital nursing staff and St. Luke's College of Nursing staff saw the inauguration of the "Committee to Study the State of Training." Literature analysis and program trials by this committee led to the development of an educational program targeting the transition from nursing student to clinical nurse. This training program commenced in the College of Nursing in 2014 after being incorporated into the 2011 curriculum revision as the "Clinical Nurse General Training: From student nurse to new nurse" as an optional course for fourth-year students. The course includes simulation exercises of those situations not experienced in practical training up to the third year such as being responsible for several patients, dealing with multiple tasks and under time constraints. The clinical teaching staff and master's degree students in the clinical nurse educator course, both highly experience in ward nursing, enact the roles of general director, teacher, assessor, patient. The course is managed through a combination of both clinical and basic education in order to deliver more realistic training.

[Key words] Simulation training, nursing student, Clinical Nurse General Training

[要 旨]

2004年，聖路加国際病院看護師と聖路加看護大学（当時）教員の有志による「実習のあり方検討会」が発足した。検討会では文献検討およびプログラムの試演を経て，看護学生から臨床看護師への移行のための演習プログラムを開発した。看護学部では，本演習プログラムを2011年度のカリキュラム改訂時に「臨床看護総合演習」（4年生選択科目）として科目に組み入れ，2014年度より開講している。本科目は，複数患者の受持・多重課題・時間切迫といった3年次までの実習では体験しない状況をシミュレーションして演習を行う。演習時の全体指揮・プリセプター役・評価者・患者役等は，臨床経験豊富な病院ナースマネージャー（臨床教員）および看護教育学上級実践コースの大学院生が担当し，よりリアリティのある演習となるよう臨床と基礎教育の連携によって科目運営を行っている。

[キーワード] シミュレーション演習，看護学生，臨床看護総合演習

1) 聖路加国際大学看護学部看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
2) 聖路加国際病院看護部・St. Luke's International Hospital, Department of Nursing

I. はじめに

近年の医療技術の発達、高齢化に伴う医療需要の増加、医療費の増大などを背景に、臨床では在院日数の短縮や高度専門医療の提供が求められている。一方で、看護基礎教育においては、患者の安全確保と人権への配慮から、学生が臨床実習において実施できる基礎看護技術には限界があり、看護学生の看護実践能力習得の機会が少なくなっている。基礎教育における臨床体験の乏しさは、新卒看護師の職場不適応を促進し、早期離職につながるものが懸念されている。これらの課題に対応するため、本学では、2004年に井部俊子学長（当時）の発案により、新卒看護師の離職率改善という課題に対し新卒看護師の臨床適応の促進を目的とした、「実習のあり方検討会」が発足した。本検討会は、聖路加看護大学（当時）の教員と聖路加国際病院の看護師13名から構成され、卒前教育における臨床実習プログラムや教育方法の改革を目指し、2007年度まで活動を行った（表1）。また、その成果は、複数受持ち実習を総合実習として開始するなど、カリキュラムに可能な範囲で反映させている¹⁻¹⁷⁾。さらに、開発された演習プログラムは、2011年度より本学のカリキュラムに、「臨床看護総合演習」として導入され、2014年度開講に至った。ついては、2016年度で3年目となる本科目の概要について、本稿にて報告する。なお、文中に掲載している写真は、本科目紹介のために公表される旨説明し、被写体の同意を得ている。

II. 「臨床看護総合演習」概要

2011年度、聖路加看護大学（当時）では、カリキュラム改訂が行われた¹⁸⁾。本改訂に先立ち、2007年度からワーキンググループが発足し、前カリキュラムにおける課題について検討を行っていた。本科目は、ワーキンググループにて、卒業後の看護実践能力につなげるための科目として新設された。本科目は、4年次後期開講の選択科目であり、単位数は1単位（30時間）である。科目担当教員は「実習のあり方検討会」のメンバーであった教員2

名と病院看護職2名（臨床教員）を含む5名であり、大学院看護教育学上級実践コースの大学院生が教学補助者として科目運営の一端を担っている。

1. 演習目的

本科目では、卒業後の実践能力につなげるために、以下の3点を実習目的として設定している。

- 病棟における多重課題・時間切迫の状況下で、的確な判断ならびに優先順位の決定、的確な技術の実施、支援の要請などを実践することができる。
- 自分が行うべき看護業務の遂行が適切にできる。
- 以上を総合的に学び、自己の課題を明確にすることができる。

2. 演習の実際

本演習は、看護師が臨床場面で実際に遭遇する看護状況を設定したシミュレーションシナリオを用いて行う。シナリオでは、優先順位の判断や臨機応変な対応が必要とされる看護業務が、複数同時に発生する。これは、「実習のあり方検討会」で行った研究¹⁹⁾において、複数受持ち・多重課題・割り込み業務など実習未体験の内容が臨床適用阻害要因となり得る、という結果を受けて作成したものである。

学生は、シナリオに基づいてシミュレーションされた状況下にて、優先順位を判断し、時間内にあらかじめ提示された業務を実施する。シナリオはAとBの種類を準備し、どちらか一方の指定されたシナリオでシミュレーション演習を2回実施する。演習を繰り返し行い、振り返りを行いながら、学生は、的確な判断、的確な技術の実施、支援の要請などについて総合的に学ぶことを意図している。

1) 演習方法（表2）

本演習では、事前に学生に、シナリオに登場する患者の概要と実施すべき看護業務を提示する。学生は事前に「事前記載シート」にて、優先順位を考えた行動計画を立てたうえで演習を実施する。演習後には、演習参加者（学生、教学補助者、教員）全員で振り返りを行う。学生は

表1 実習のあり方検討会活動概要

初年度	・卒業後2年目の看護師を対象とした調査 「学生時代の実習」「実習と看護師として働く今との違い」などについての聴き取り
2年目	新卒看護師の実態調査 1) 本学を卒業した新卒看護師を対象としたインタビュー調査 2) 看護学生から新人看護師へつなぐ教育プログラムに関する文献検討の開始
3年目	実態調査をもとにした演習プログラムの検討 1) 演習プログラムの開発とパイロット・スタディの実施 2) 検討会メンバー看護教員および病院看護師による「総合実習」への取り組み
4年目	・開発した演習プログラムの実施 ・新人看護師への適応を意識して段階的に組まれた「総合実習」の規模の拡大

文献4) より一部改編

表2 演習方法

1. 事前の演習内容の学生への提示
受持患者の概要、時間内にすべき課題について (表3)
2. 事前学習の提示
関連する看護業務の手順を配布
3. 事前行動計画の立案「事前記載シート」
4. 演習実施 (1回目)
5. 演習振り返り
演習参加者による振り返りを行う。「状況に対応した優先順位が判断できたか」「適宜他者への協力を求められ、設定時間内に為すべきことができたか」等について フィードバックを行う。
※看護業務遂行状況は、評価者が評価用紙を用いて個別に行う。
6. 演習後自己評価
「優先順位は適切か」「援助の求め方は適切か」「看護業務の遂行は適切か」について、演習後自己評価票に記入し、その日のうちに提出する。
7. 行動計画の修正
8. 演習実施 (2回目)
9. 全体の振り返り/まとめ
10. シミュレーションシナリオ デモンストレーション

表4 学生への課題提示内容 (シナリオA)

[看護業務]
青山さん：検査着に着替える
佐伯さん：抗菌薬の溶解及び投与
加藤さん：朝食後薬の与薬

[本日の予定]
青山さん：胃カメラ (午前 on Call)
加藤さん：8:45 点滴の静脈内投与
佐伯さん：14:00 リハビリ室でのリハビリ

⇒あなたは、夜勤看護師から引き継ぎを受け、受持患者への挨拶を終えたところです。
現在 8:30です。8:45までに必要な業務を行ってください。

表3 シナリオ内容：シナリオA 患者

課題	患者	患者	患者
複数受持	青山 昭雄 (65歳, 男性)	佐伯 朔太郎 (70歳, 男性)	加藤 勝彦 (88歳, 男性)
患者状況	・本日入院後、胃カメラ ・インスリン使用中	・肺炎	・CVA (右片麻痺) ・認知症 ・体動コール使用中
多重課題	・入院オリエンテーション ・胃カメラオリエンテーション	・与薬 (側管点滴)	・与薬 (経口薬)
割り込み業務 (時間切迫)	・時間内に入院する		・体動コールがなり、排泄介助が必要となる

自身が実施した演習を「演習後自己評価票」にて振り返り、次の演習のために、「事前記載シート」を作成する。そして、同内容のシナリオにて再度演習を行い、振り返りを行う。最後に、教学補助者によるシミュレーションシナリオのデモンストレーションを実施し、全体を振り返る。これらのプロセスを経て、新人看護師として看護を実践するうえでの、自身の課題を明確にする。

2) シナリオ内容

「臨床看護総合演習」開講に際して、「実習のあり方検討会」にて作成したシナリオを、教学補助者である院生を中心に科目担当者間で検討し修正した。シナリオは4床部屋に3人の患者が入院している設定とし、複数患者の受持・多重課題・割り込み業務を含め (表3)、看護業務を設定し課題として提示した (表4)。複数のシナリオを学生が体験できるよう、シナリオは2種類作成した。シナリオの登場人物は、学生が行う新人看護師の他は、患者3名、プリセプターナース1名、医師1名 (シナリオBのみ) である。

演習においては、就業直後の看護師の様子をよりリアルにシミュレーションするため、患者役は臨床経験豊かな大学院生および臨床看護師経験教員が担当した。また、演習時の課題発生状況を調整するディレクターは、「実習

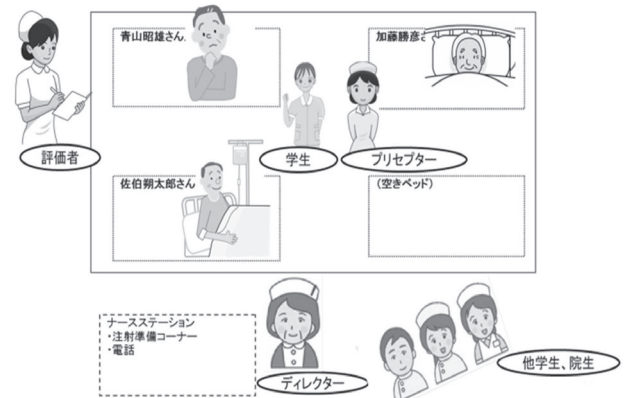


図1 演習実施状況

あり方検討会」のメンバーでシナリオを作成した臨床教員 (病棟ナースマネージャー) が行った。さらに、評価者およびプリセプター役は実際にプリセプター体験のある大学院生が担当した。学生の看護業務の達成状況は、評価者が看護業務評価票を用いて評価した (図1-3)。

4) 評価方法

評価は、「自己の振り返り内容 (50%)」「看護業務遂行状況 (40%)」「遅刻欠席など参加状況 (10%)」の3項目にて行い、科目担当者全員にて評価の妥当性を審議した。



図2 演習風景（実習室を模擬4床室として設営）
左ナース：ディレクター，中央ナース：プリセプター，
右ナース：評価者



図3 演習後のフィードバックの様子

Ⅲ. おわりに

本科目は開講して、2016年度で3年目を迎えた。初年度の2014年度の履修者は13名、2015年度は14名、2016年度は8名であった。2015年度履修者の感想¹⁹⁾からは、「自分の課題が見つかったので、この演習をとって良かったと思いました」、「清潔、不潔野の判別や患者確認といった事故につながる基礎的な技術が課題が重なっている状況でおろそかになってしまうことは怖いことで、学生のうちに身につけておきたいと思った」といった自己の課題について、また、「臨床に出る前に、一度でもこの経験を持っているか否かの大きさは新人Nsになった際に大きいと思った」、「今までの実習では、1人の患者しか持ったことがなかったので、優先順位を立てるという作業ができたことが一番の成果だと思います」、「三重課題という実習では経験しないことを、4年生という臨床に出る前に学べるということは貴重でした」といった「新人看護師としての準備」に関するものが聞かれ、本科目は、新人看護師への準備教育として有効であることが示唆された。

2016年度は、学生は自身が実施しないシミュレーションシナリオにおいて、患者役を担当した。患者役を担当することにより、看護の受け手である患者の視点を体験することができ、自身の看護実践をより振り返る貴重な機会となっていることがうかがわれている。今後も、移行期教育の演習としての目的が達成できるように、臨床教員や教育補助者と協働しながら、演習方法のさらなる改善をはかっていきたいと考えている。

謝 辞

本科目運営を担当された院生の皆さん、ありがとうございました。また、本科目は、「実習のあり方検討会」の活動の成果として開講にいたりました。発起人である井部俊子前学長、佐藤エキ子前看護部長はじめ、これまで関わられた全メンバーに心から御礼申し上げます。特に、

本プロジェクトの中心的役割を担い、活動の求心力であった高屋尚子氏に深く感謝いたします。

引用文献

- 1) 佐居由美, 松谷美和子, 平林優子ほか. 新卒看護師のリアリティショックの構造と教育プログラムのあり方. 聖路加看護学会誌. 2007; 11(1): 100-108.
- 2) 松崎直子, 佐居由美, 桃井雅子ほか. 【実践力が育つ学内演習-聖路加看護大学における取り組み】実践力を育てる3つの演習 (演習1) コミュニケーションスキルを磨こう. 看護展望. 2007; 32(8): 769-775.
- 3) 高屋尚子, 寺田麻子, 西野理英ほか. 【実践力が育つ学内演習-聖路加看護大学における取り組み】実践力を育てる3つの演習 (演習3) 多重課題への対応. 看護展望. 2007; 32(8): 783-789.
- 4) 松谷美和子. 【実践力が育つ学内演習-聖路加看護大学における取り組み】臨床-基礎教育の連携による学内演習の構築. 看護展望. 2007; 32(8): 764-768.
- 5) 佐居由美, 松谷美和子, 西野理英ほか. 【卒業に向けた実践力の養成】看護実践力を段階的に統合する実習プログラム 臨床看護師の業務体験が学生にもたらす効果. 看護展望. 2008; 33(13): 1228-1233.
- 6) 松谷美和子. 【卒業に向けた実践力の養成】卒業に向けて実践力をどう高めていくか. 看護展望. 2008; 33(13): 1224-1227.
- 7) 桃井雅子, 佐居由美, 松崎直子ほか. 新人看護師への移行演習プログラムの試行と評価 (1) コミュニケーション・スキル習得のための演習. 聖路加看護学会誌. 2008; 12(2): 41-49.
- 8) 奥裕美, 松谷美和子, 佐居由美ほか. 看護基礎教育と看護実践とのギャップを縮める「総合実習(チームチャレンジ)」の評価 看護学生の実習記録の分析. 聖路加看護学会誌. 2009; 13(3): 62.
- 9) 平林優子, 松谷美和子, 佐居由美ほか. 新人看護師への移行演習プログラムの改善とその評価 臨床の場

- をっての演習と体験者の評価から. 聖路加看護学会誌. 2009; 13(2): 63-70.
- 10) 佐居由美, 松谷美和子, 平林優子ほか. 看護基礎教育と看護実践とのギャップを縮める総合実習の効果 看護学生から臨床看護師へ. 聖路加看護学会誌. 2009; 13(1): 24-33.
 - 11) 松谷美和子, 三浦友理子, 佐居由美ほか. 看護実践能力 概念, 構造, および評価. 聖路加看護学会誌. 2010; 14(2): 18-28.
 - 12) 佐居由美, 松谷美和子, 平林優子ほか. A看護系大学卒業生19名の「看護実践能力」卒業直後と就職3ヵ月後の比較. 聖路加看護学会誌. 2010; 14(1): 34-42.
 - 13) 奥裕美, 松谷美和子, 佐居由美ほか. 看護基礎教育と看護実践とのギャップを縮める「総合実習(チームチャレンジ)」の評価 看護学生の実習記録の分析. 聖路加看護学会誌. 2010; 14(1): 17-25.
 - 14) 松谷美和子. 学生から看護職業人への節目を支える看護学教育 大学と臨床の連携で体系化した総合実習－チームチャレンジ. 日本看護学教育学会誌. 2010; 20: 80-81.
 - 15) 松谷美和子, 佐居由美, 奥裕美ほか. 看護系大学新卒看護師が必要と認識している臨床看護実践能力 1年目看護師への面接調査の分析. 聖路加看護学会誌. 2012; 16(1): 9-19.
 - 16) 佐居由美, 松谷美和子, 伊東美奈子ほか. 【「複数受け持ち」実習をより効果的に】受け持ち患者を増やしていく実習 総合実習「チームチャレンジ」の実際. 看護教育. 2012; 53(11): 944-950.
 - 17) 実習のあり方検討会. 看護基礎教育における実習のあり方検討会活動報告書(2004-2007年度). 2008; 1-2.
 - 18) 麻原きよみ, 有森直子, 佐居由美ほか. 聖路加看護大学2011年度改訂カリキュラム. 聖路加看護大学紀要. 2012; 38: 52-57.
 - 19) 佐居由美, 松谷美和子, 三浦友理子ほか. 臨床－基礎教育の連携による演習プログラムの開発 多重課題, 時間切迫シミュレーション演習の検討. 聖路加看護学会学術大会講演集20. 2015; 32.